

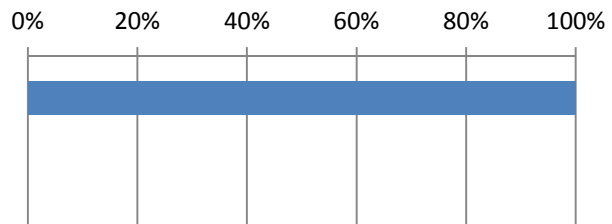
被服学分野における授業での情報活用能力育成の取り組みについて

1. 回答率 4%

依頼教員数	89(名)
回答教員数	4

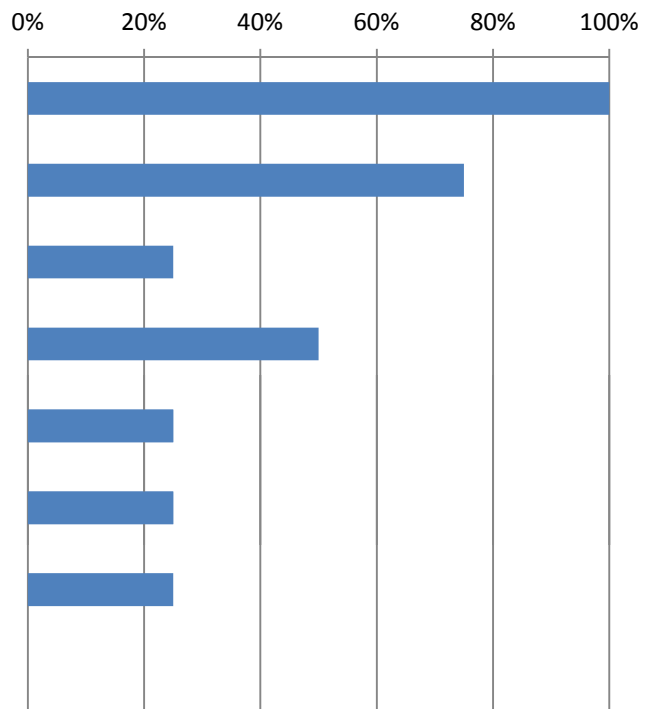
2. 情報教育育成への取り組みの割合

項目	人数	割合
実施している項目を選択した教員	4	100%
実施していない教員	0	0%



3. 情報活用能力育成への取り組み状況

項目	人数	割合
被服に関する適切な情報（歴史・人体・被服構造・素材・管理）の情報源を理解し、著作権などに配慮して利用できる	4	100%
データベース、アーカイブス、文献等から適切に情報収集・分析できる	3	75%
文書作成、表計算、画像処理などの情報技術を利用できる	1	25%
被服特有のアプリケーションソフトの活用ができる	2	50%
ICTを用いて、被服に関するプレゼンテーションができる	1	25%
最新の産業構造や生産・流通の仕組みを理解するためにICTを活用できる	1	25%
ICTを用いて、ライフスタイルに合わせた商品開発ができ、衣生活の問題点を共有し、商品の品質向上につなげることができる	1	25%
ICTをローカルかつグローバルなシェアリングシステムやリサイクルシステムに活用できる	0	0%

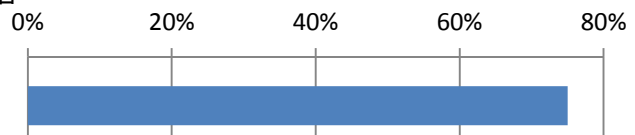


4. 情報活用能力育成を実施していない理由

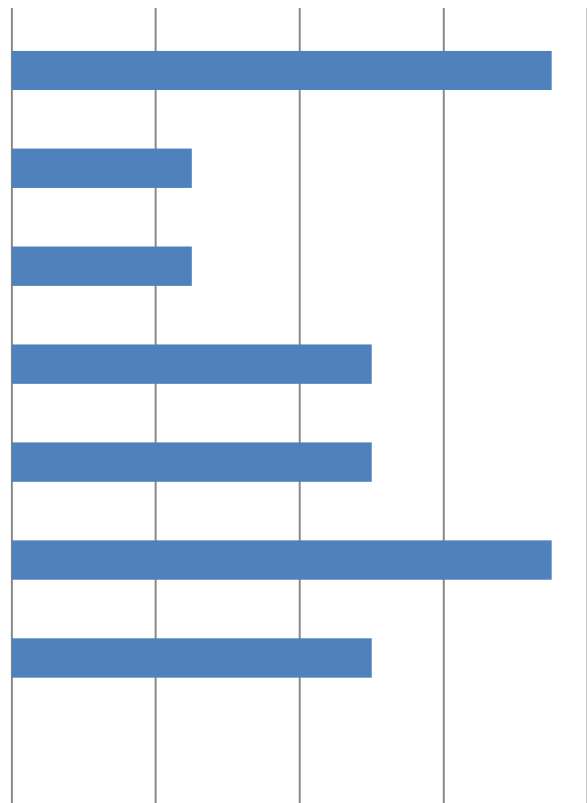
項目	人数	割合
初年次・キャリア教育で実施	0	0%
授業を進める上で情報活用能力を意識する必要がない	0	0%
授業で教える時間がない	0	0%
学習の支援体制が不足	0	0%
情報活用能力を指導する力が不足	0	0%
その他	0	0%

5. 今後取り組まなければならないと考えている教育内容

項目	人数	割合
被服に関する適切な情報（歴史・人体・被服構造・素材・管理）の情報源を理解し、著作権などに配慮して利用できる	3	75%



データベース、アーカイブス、文献等から適切に情報収集・分析できる	3	75%
文書作成、表計算、画像処理などの情報技術を利用できる	1	25%
被服特有のアプリケーションソフトの活用ができる	1	25%
ICTを用いて、被服に関するプレゼンテーションができる	2	50%
最新の産業構造や生産・流通の仕組みを理解するためにICTを活用できる	2	50%
ICTを用いて、ライフスタイルに合わせた商品開発ができ、衣生活の問題点を共有し、商品の品質向上につなげることができる	3	75%
ICTをローカルかつグローバルなシェアリングシステムやリサイクルシステムに活用できる	2	50%
その他	0	0%



6. 教育内容の例(教員個人の対応状況)

これまで、アパレルCAD教育に関する、カリキュラム、授業用テキスト、教育用自動作図機能、eラーニングを開発してきた。現在は、3D人体計測を行い、その分析アプリケーションの開発を行っている。アプリケーションは、水平断面図、矢状断面図が容易に採取できるようにする。さらに、展開図の開発を目指すものである。これらのデータは、2DのアパレルCADに読み込み、ドレーピングの要領で任意の位置に、ダーツ線等を入れる。得られた数値データを、自動作図機能に入力することによりスカートパターンを得ることができる。これらは開発中であるが、これまで行っていた3Dデータを用いたパターンに比べ、完成度の高いものになると考える。

図書館活用ガイドンスと云う時間を設けて、学生が情報・資料に広くアプローチでき、収集・分析の方向付けをする。

各被服関係授業の内容の中で被服学を体系的に理解させたいコンテンツについては本学のICTであるWebCTに關係教員でアップロードさせ、各授業でリンクを張ることができるように数名で連結コンテンツを作成して提供している。被服実習などは基礎的技術などをビデオ画像(画像用サーバーは別に用意)やPPの図として作成し、学生が自宅からでも見られるようにしている。

レポート作成にあたって、ワード、エクセルを使うよう指導している。卒業研究のための情報収集について図書館利用をすすめる。

7. 大学として必要な課題への意見

- ・ 教育、学習支援者の確保。
- ・ 例えば効率の良いファイリング、ソフトの活用などの研修があるとよい。
- ・ 学生の自主学習をも含めて、少しずつ被服に関するコンテンツの学生への提供は充実してきていると思います。しかし、学科のカリキュラムの中の周辺学問と連動していないので、トータル的に学生に何をどう修得させて卒業させたいか学科内の教員が十分話し合うことが必要であると思う。
- ・ 文書作成、表計算、画像処理などの情報技術やプレゼンテーション能力は、基礎的なものであり、被服学としてではなく、一般的知識として身に着ける必要があると考える。シラバスについては、大学のWebページから見ることができる。また、個人のWebページからもリンクしている。大学の学習支援システムに、各授業のPPTデータ、資料を掲載している。